

○ 第9回「ハートミーティング」 意見交換の内容について

メンバー まずは、チームの活動概要を説明したいと思います。

下京区は本年3月14日に130周年を迎え、下京区役所ではこの記念すべき130周年を機に地域の良き伝統と絆を守り、下京区全体の盛り上げに繋げ、次世代に引き継ぐことを目指し、この「下京区130周年記念事業 庁内推進チーム」を設置しました。

チームでは3つの部会（「記念誌」部会・「スタンプラリー」部会・「広報PR」部会）をもうけ、オリジナル手ぬぐい・記念バッジ・携帯ストラップの作製、＜下京区のキャラクター＞シモンちゃんの10歳のお祝いイベントの開催、子供向けにシモンちゃんの紹介絵本の作製、龍谷大学とのタイアップで実際の山鉾を見ながら「祇園祭を裏側から見る」市民講座を開催するなど様々な取組を推進してきました。また、現在は11月8日に開催するスタンプラリーの準備を進めています。

市長 オリジナル手ぬぐいはよくできていますね。私も使わせてもらっています。区役所で素晴らしい地域の魅力を感じておられる皆さんが、普段の仕事とは違うメンバーと一緒に、地域とのつながりを通して、京都の魅力を再認識し、広める取組をされていて、大変素晴らしい成果に繋がると感じています。若い人が主体的に参加されていることも嬉しい。

京都市の歴史は、大変おもしろい。京都市の学校を作ったのは文部省ではありません。地元の人々が、子どもたちを地域の宝として共に育てようと、お金を出し合って日本で最初の小学校を作られた。明治2年に小学校（学区）ができ、明治12年に下京区・上京区ができ、明治22年に京都市ができ、明治31年に住民が市長を選べるようになりました。京都市ができてから、区や学区ができたものではありません。逆ですね。今、地域主権時代と叫ばれていますが、昔から京都は地域主権の町でした。昨年、京都市は120周年を迎えましたが、実は下京区の方が歴史は長く、神社仏閣や文化財、伝統産業も数多くあります。また、京都駅・高瀬川・梅小路公園などがあり、ものづくり、伝統産業の町、世界に誇る先端産業のまちでもあります。大学なども多いですね。

下京市という市が存在すると考えてみては。区長が下京担当市長で、学区の代表が住民議会の代表のようなものです。「地域主導でまちおこしを」です。

退職されたある区長が「京都は地域力がすごい。だから職員は若いうち

に区役所で働くべきだ」とおっしゃっていました。今日、こうして若い皆さんが、区役所で頑張ってくれているのを改めて感じて嬉しい。

最も市民に近く、市民の願いや悩みなどを日々肌で感じている区役所の皆さんが、仕事の役割を越えて市民とともに汗をかき、知恵を出し合って互いに刺激し合い、活動していかれることを期待しています。

メンバー 学区・地域というコミュニティを通して、貴重な体験をしていると肌で感じています。

現在はスタンプラリーを開催するに当たり、ポイント56箇所を決定するために、36箇所まで地域からの推薦をいただき、残りは雑誌などを頼りに幕末・水の都といったテーマごとに絞り込みました。実際に歩き、ポイントを確認するなかで、地元住民と対話する機会が多々あり、とても良い経験となっています。普段の業務を越えての取組ということにも意義を感じます。

メンバー 市長という組織のトップに立った時に、今までとは考え方や、職員や市民に対する想いが変わったことなどがあれば伺いたい。

また、仕事のうえで何を大切にされているか伺いたい。

市長 基本的に考えは変わっていませんね。現地現場主義を一番大切に。

市長就任前後、全職場を訪問しました。区役所は2回訪問しましたが、職員がそれぞれ頑張っていると感じています。昔は、公務員に対して仕事を確実にすることが求められてきました。従って、笑顔で親切、丁寧にという考えがあまり認識されていませんでした。しかし、全庁的な「笑顔・親切・ていねい・テキパキ」の「きょうかん」の取組を進めていただき、最近、嬉しいことに、職員の対応が良くなったという良い評判を耳にします。

私が仕事のうえで留意していることは、物事を始めるとき、大成功して市民に喜んでいただける最高のイメージを頭に描きながら仕事をする。同時に、最悪の場合にも備え、万全を期し、そして自分で責任を取れるかどうかとも考えることが大事ということ。「石橋を叩いて渡る」ことはよいが「石橋を叩いてつぶしてしまう」ようではいけない。大きな構想を練り、あとは一番良いイメージに向かって突進していけばよいのです。

メンバー 市長はいつも着物を着ておられますが、着物に対するこだわりがあれば教えていただきたい。

市長 着物はもともと大好きで、元旦からずっと着ています。今日、京都の伝統産業でもある京友禅も西陣織も出荷量が激減しており、このままでは世

界最高峰の染物である日本の着物がなくなってしまう。だからこそ、出来る限り着て、そして広めようと思うようになりました。

姉妹都市50周年の事業で去年はパリ、今年はボストンへ訪問した時も着物で通しました。産業観光局が頑張ってくれて来年の東京ガールズコレクションには、京都の着物が出展されます。着物は世界遺産にしてもよいくらいの素晴らしい財産だと思うので、着続けてアピールしていこうと思っています。御用初めでは約180名、また祇園祭の時も職員が浴衣を着て、多くの市民に好評をいただいています。皆さんにも是非着ていただきたい。

メンバー 実は、私も着物が好きで、お正月には着物を着用しました。

メンバー 私は「ふれあい祭」のイベントを担当しており、何か良いアイデアはないか考案中です。市長は着物ですが、当日私は着ぐるみを着ることになっています。子供に対してアピールをしたいと考えていますが、こういったことに着目して考えていけばよいかアドバイスを頂きたい。

市長 私は、着ぐるみの経験はないが、猿のかぶり物なら経験があります(笑)。
教育現場で、幼稚園の先生に聞いた話。近くの子を大事にすると同時に遠くにいる子にも気を配る。そして的確に指導する。目の前にいる子どもだけではなく、遠くにいる子どもたちにも広く意識を向けてあげることが大切ではないですか。

メンバー 私は、スタンプラリー部会で学区ごとのポイントを歩いて回るなかで、今まで知らなかった下京区の魅力を感じました。そして、それらを色々な人に伝えたいと思っています。

市長は、市長になって、今まで行ったことのない京都の様々な地域に足を運ばれたと思いますが、人には言いたくない京都のおすすめポイントなど、穴場があれば教えていただきたい。

市長 人間というのは、「ないもの」を求める傾向にあります。近くにあるものの価値になかなか気付かない。それぞれの地域には、素晴らしい自然や文化財があり、素晴らしい経験を積んだ匠もおられる。これらを再認識し、活かさないともったいないですね。近くにある「もの」「人」「自然」などの存在を認識し、これを活かすことが一番大切。下京区役所が音頭をとって行う、地域ぐるみのこうしたイベントなどは本当に素晴らしい取組だと思います。

メンバー 私は今年の新規採用職員ですが、発令式の時に市長から「迷ったら、困難な道を選びなさい」との言葉を聞きました。とても印象に残っています

が、今までどのようにして困難を乗り越えられたのか、教えていただきたい。

市長 「山より大きな獅子は出ない」「命までは取られない」ということ。

私は高校時代、勉強以外の活動に没頭し、大学進学を断念して市役所に入りました。教育委員会で素晴らしい先輩に出会い、公教育を良くしようと奮起し、毎日遅くまで働き大変でした。しかし、一日は絶対に24時間。明けない夜はない。プラス思考で。暗いトンネルにいる時は明るい日なたをイメージし、明るいときは、日陰にいる人に心を寄せて働く。そう心掛けた。自分に言い聞かせることも重要です。若い時に「傷付く」ことは儲けものだと思って下さい。「傷付け」ば「気付く」。何より、困難な道を選んでおくで後悔しない。勿論、合理的な判断は必要です。わざわざ遠回りすればよい訳ではない。私が言いたいのは、「どちらを選択したらよいか迷ったら、しんどい方を選ぶ」ということ。例え失敗してもそれは教訓になり、次に生きてくるものです。

メンバー 昨今ではよく「お金がない」と言われます。京都市も財政状況が厳しく、私は最小の努力で最大のパフォーマンスを出すことを意識することが大事だと思っていますが、この情勢をどのように乗り切るべきでしょうか。

市長 確かに国も地方も大変な時代です。財政危機を認識しなければなりません。これから人口が減少するなか、国は、税収の倍以上の財政支出をしている状況です。京都市も職員を20,000人から15,500人まで減らすなど様々な改革に取り組んできましたが、それでもなお、厳しい財政状況にあります。

ただし、良い情報も一つ。今年3月、10年ものの公募債を200億発行しました。結果京都市は、大阪府よりも0.15%低い金利で発行することができました。この金利は東京に次いで2番目に低い水準です。市場や投資家が評価して、金利が決まる時代です。京都市の全庁を挙げての改革への取組と京都のブランド力、京都の底力を高く評価してもらった結果ですね。京都市は、今はお金がありませんが、京都にはものすごい潜在力、可能性があります。それらを市政が最大限活かすことが大切と実感しています。

メンバー 市長が考える京都市の最大の課題は何でしょうか。

市長 いくつかありますが、一つは中小企業・伝統産業対策です。それから、生活のセーフティーネット構築と本気で環境問題に取り組むこと。フランスでは、環境問題に取り組む「キョウト」という名の高校があります。

ぜひ、公共交通を大切に、歩くまち京都を推進したい。車に乗っていても、魅力に気付かない。市バス・地下鉄を利用してもらい、かつ歩く。それは、健康にもつながる。環境問題をキーワードとしてあらゆるものを結び付けたい。

また現在、梅小路公園に建設予定の水族館に関して、一部では反対意見も出ています。意見はあってよい。それがきっかけで議論が深まり、京都は磨かれます。かつて、京都タワー建設も平安神宮建設も反対がありました。また、動物園も大正天皇の御成婚の記念に作られましたが、鳥居の横にキリンやゾウがいるのは駄目だという意見もありました。それが今ではどうか。京都市の名所ばかりです。水族館は、森と都市と海という自然と命の繋がりを学べる場、大人から子どもまでが訪れる場として成功させたい。そういう町づくりは大切です。また、併設の鉄道博物館は現在、大阪の交通科学博物館にある展示品を京都に移し、建設することを検討しています。梅小路公園の水族館と鉄道博物館は、雇用にも貢献でき、来場者が市バスを利用することなどによる経済効果も大いに期待できます。

メンバー 他府県から来る人にとっては、「京都は地域のつながりが強く、敷居が高い」とのイメージを持たれているようですが、そのイメージを払拭するためのアドバイスを頂きたい。

市長 この中で京都生まれの人はいますか？（9名中3名が挙手）

これは、実際には他府県の住民を受け入れてきているということ。もしかすると、コミュニティがしっかりしている分、入りにくいのかもかもしれません。敷居があるのは仕方がない。敷居は低くするのではなく、またぐ力、またその方法を丁寧に説明し、その仕組みを作っていけばよいのでは。

若い人が生き生きと暮らしていく都市を目指し、そのためにも他府県出身者が多い学生に世代の枠を越えてどんどん地域の行事に参加してもらい、住民と接する機会を増やせば面白いのではないかな。

メンバー 区役所は地域の最前線の職場です。しかしながら、区役所は本庁の下請けという考えを持つ職員もあり、どのようにしたら職員の気持ちを切りかえさせることができるのか日々考えていますが、そのためのアドバイスを頂きたい。

市長 共に汗し、達成感を共有することが最大の意識改革につながるのでは。

京都は「ものづくりのまち」、「伝統産業、先端産業のまち」であると同時に、「物語づくりのまち」ですね。源氏物語、マンガ・アニメ、映画、ゲームなど、日本にはあらゆる物語があります。茶道、華道、和食なども「物

語」です。そして、ものづくりと物語づくりが連動しているのが京都の強みです。「ものづくり」「物語づくり」そして「人づくり」「まちづくり」を融合させて、下京区を発展させていただきたい。下京区はあらゆるタブーをなくす先人達の努力の歴史があり、それができる町です。物を作るという想像力を生かし、観光産業にアピールし、京都の輝かしい歴史を新しい時代に繋げるよう、皆さんが地域の中に入って住民と一体になって、取り組んでいてほしい。

130周年記念事業の取組は本当に素晴らしい。日常の仕事で忙しいなか、普段の業務を越えて、しかも公募に応え参加している皆さんには敬意を表したい。これからもぜひ頑張ってください。

【参加者の声から】

- はじめは、参加メンバー全員が緊張していたが、次第に各人から率直な質問や意見が出されるようになり、とても楽しむことができた。
- ハートミーティングに若手職員がどんどん参加できればいいと思う。自分の取組について語り、市長やメンバーと意見交換をすることで、気付くことがたくさんある。
- 市長のお話から下京区が持つ大きな力と魅力を再認識できた。
市民の皆さんにこの魅力をPRするお手伝いができることは、普段の業務では得られない有意義な経験になると思う。